

八幡地区の「豆まき」について

上智大学田淵ゼミ

荒井 千晶

井田 真央

田淵 六郎

1. はじめに

2023年度に上智大学総合人間科学部社会学科田淵ゼミでは、ゼミでの活動として、佐渡市佐和田地区八幡集落における八幡祭りに参加させていただき、地域で伝承されてきた祭礼行事と芸能について学習を深めるとともに地域の方々との交流を深めることができた。実施にあたっては佐渡市「令和5年度大学と地域が連携した地域づくり応援事業」の補助を賜り、集落への仲介には特定非営利活動法人佐渡芸能伝承機構のご支援をいただいた。記して感謝申し上げたい。

2. 活動の概況

2023年9月14日に学生5名と教員の田淵は佐渡に移動、その夕方に八幡集落の集落センターにうかがい、40分ほど豆まきの太鼓の練習をさせていただいた上で、隣接する八幡小学校で行われていた子ども夜相撲を見学させていただいた。翌15日、早朝から集落センターに集合し、夜遅くまで「豆まき」行事をご一緒させていただいた。16日、17日は羽茂高校や岩首地区の鬼太鼓などの視察を行い、18日に帰京した。

八幡集落での豆まき行事で我々が学んだことの報告をさせていただくため、12月2日夕方に学生2名と田淵とが集落センターを訪問し、報告会を開かせていただいた。住民の方々との意見交換を行うとともに、終了後は青年会の有志の方々との交流を深めることができた。

3. 八幡の「豆まき」とは

佐和田地区八幡集落に位置する八幡宮の例祭「八幡祭り」にて、八幡青年会が主体となって奉納する鬼太鼓を指す。豆まきでは、600世帯以上ある広大な集落内を門付けする。我々が参加した9月15日の祭礼は、朝6時頃に八幡宮にてはじまり、22時頃に集落センターで解散するという、文字通り1日かけての行事であった。

鬼太鼓は佐渡を代表する芸能であるが、その分類に位置づけるとき、八幡の豆まきは真野湾沿岸に見られる「相川系」かつ「豆まき型」に属する鬼太鼓であるとされる。二人の鬼の周りを太鼓にあわせて翁が舞うものであり、太鼓を打つ者は面を付けない。

八幡集落の門付けの鬼太鼓は、長刀を持つ青鬼が前に、その後に棒を持つ赤鬼が立つ。

そこに後方から現れる翁（豆まき）が、片手に升を、別の手に茄子を持ち、かけ声にあわせて舞を披露する。翁は黒い面、白い面を付けた2名がいて、適宜交代する。また、門付けの最後にそれぞれ3名の者が支える雄雌の獅子の舞が加わる。

基本的な進行は以下のようなものである。翁は、太鼓とかげ声にあわせ、直立不動の鬼たちの周りを舞うが、時折鬼の横に進み出て升を差し出し、鬼の様子をうかがうような所作を見せる。その際、鬼たちは翁を威嚇する動きを見せるが、翁は飄々と舞い続ける。やがて鬼たちは翁の舞に嫌気が差して退散するかのように、長刀と棒を振るう。そこに2匹の獅子たちが頭を鳴らしながら現れて鬼たちの周りを舞い、最後に中央で獅子たちが頭を合わせる。獅子が舞う際に爆竹を鳴らすこともある。

翁の舞を導く太鼓の拍子は、翁が片足で舞うときに「デデンコデンデン」、翁が二足で舞う（移動する）とき「デーデンデデデン」という2つがある。また、門付けの間に行が移動する最中は「デン デデン」という拍子を打つ。

門付けの前後に、獅子たちはお花をいただいた家の玄関などで「家内安全」あるいは「商売繁盛」を祈願し、獅子頭を鳴らしたり、家の人の頭を噛んだりする。門付けは八幡の家庭だけでなく、事業所などでも行われる。午後に八幡小学校で比較的長い時間の門付けを行った際は、子どもを始め多くの人が集まり、盛り上がるのピークのようであった。

4. 豆まきに参加した学生たちの感想

感想の第一は、祭りの非日常性である。特に、知らない家庭に上がらせてもらったり、ご飯を頂いたりする経験は稀有なものだった。近隣住民同士の関わりが希薄化している都市部を「日常」とすれば、人との密接なつながりが多く見られる八幡の祭礼は、「非日常」性が際立っているように感じられた。

第二は、祭りに関わる人々のつながりが、緩やかさと強さの両側面を持っていることである。祭りの手順に強い決まりはないように見受けられたうえ、よそ者の学生も祭りに帯同できることは「緩やかさ」であった。一方で、青年会メンバーやOBたちが、猛暑での長時間にわたる祭りを完遂するために相互に助け合う姿には「強さ」が感じられた。

第三は、祭りの特徴である。八幡の豆まきは、地域住民に参加を強要するものでない点で「緩やか」だが、地域や性別を超えた様々な人が参加していて、つながりは広範に及ぶ。青年会のOBも祭りに顔を出し、アドバイスをを行うなど世代を超えた関わりがあった。緩やかさのなかでも様々な新しい創意を加え、世代を超えて祭りが持続していくという所に、「伝統」ではなく「伝承」としての側面を印象付けられた。

5. まとめに代えて

こうした貴重な学びと交流の機会を与えていただいた八幡青年会と八幡集落の皆さまに深謝申し上げます。今後も豆まきへの参加をはじめ、八幡の方々との交流を深めていくことができれば幸いです。